

ガイアナ内政、経済、外交月間報告
(2024年10月)

在トリニダード・トバゴ日本国大使館

10月のガイアナの内政、経済、外交月間報告(カリコムの動きを含む)は以下の通り。

1 概況

- 首都ジョージタウンで、邦人観光客が旅券を含む強盗被害に遭った。
- 政府は、天然資源基金(NRF)から3億米ドルを引き出し国債整理基金に移転。今回で本年度4度目の資金移動となり、2024年の累計引き出し額は11.5億米ドル。
- アリ大統領は、各世帯への20万ガイアナドル(約950米ドル)の現金支給、2025年1月からの大学教育の無償化、2025年末までの電気料金50%削減の実現、1万ガイアナドル(約47米ドル)の医療費用引換券の配布、2025年末までの公共部門の最低賃金月額10万ドル(約475米ドル)設定等の取り組みを発表。また、18歳以上の全国民に追加で10万ガイアナドル(約475米ドル)の現金給付を実施すると発表。
- 政府は、第3四半期の原油及びロイヤリティ収入に相当する約5.82億米ドルを天然資源基金(NRF)に預け入れたと発表。
- カリコムとアフリカ連合は、両組織及び国民間の協力と連携強化のための覚書に署名。

2 内政

- (12日報道)首都ジョージタウンで、邦人観光客が旅券を含む強盗被害に遭った。

3 経済

- (1日報道、2日政府発表)政府は、ガイアナ国防軍(GDF)の活動強化に向け、米ベル・テキストロン社のヘリコプター2機を購入。右の総額は1,600万米ドル。
- (4日報道)政府は、天然資源基金(NRF)から3億米ドルを引き出し国債整理基金に移転。今回で本年度4度目の資金移動となり、2024年の累計引き出し額は11.5億米ドル。
- (6日報道)中銀は、2024年上半期の食料品価格が3.2%上昇したと発

表。

- （6日政府発表）政府は、農業部門の多様化を図り食糧輸入額を削減するべく、国内で普及していない作物の栽培支援に14億ガイアナドル（約665万米ドル）を投資。
- （7日報道）2024年上半期の国内の米生産量は、前年同期比19.8%増となる約36万トンを記録。
- （8日報道）2024年上半期の外国為替取引総額は、前年同期比39.0%増の98億8,910万米ドルを記録。
- （11日報道）アリ大統領は、各世帯への20万ガイアナドル（約950米ドル）の現金支給、2025年1月からの大学教育の無償化、2025年末までの電気料金50%削減の実現、1万ガイアナドル（約47米ドル）の医療費用引換券の配布、2025年末までの公共部門の最低賃金月額10万ドル（約475米ドル）設定等の取り組みを発表。
- （16日政府発表）アリ大統領は数日前に発表した各世帯への20万ガイアナドルの現金支給に加え、18歳以上の全国民に10万ガイアナドル（約475米ドル）の現金給付を実施すると発表。
- （18日報道）政府は、第3四半期の原油及びロイヤリティ収入に相当する約5.82億米ドルを天然資源基金（NRF）に預け入れたと発表。
- （18日報道）中国のCMEC社とシノファーム社により形成されるコンソーシアムは、第9地区におけるレテム病院の設計及び建設を約3,100万米ドルで受注。
- （22日報道）政府は、英JE Energy社及び英BB Energy社と、3隻の浮体式生産貯蔵積出設備（FPSO）ライザ・デスティニー号、ライザ・ユニティ号及びパヤラ・プロスペリティ号が生産する原油の販売契約を締結。
- （23日報道）国連食糧農業機関（FAO）とアマゾン協力条約機構（ACTO）は、アマゾン地域における食糧安全保障、貧困、社会的ジェンダー不平等への対処を目的として8,990万米ドルの拠出を発表。同プログラムはガイアナの他、スリナム、ボリビア、ブラジル、コロンビア、エクアドル、ペルー及びベネズエラに恩恵をもたらす。
- （29日報道）建設費2,000万米ドルのチェディ・ジェーガン国際空港隣接のコートヤード・バイ・マリオット・ホテルは、2025年4月に完成予定。

4 外交

- （3日政府発表、4日報道）ガイアナ・ベネズエラ間の国境を画定した仲裁裁定の125周年を機に、政府は同仲裁裁定で定められた国境の有効性を改めて宣言する声明を発表。

●（３０日グレナダ報道）セントビンセントで開催された第１８回カリブ農業週間（CWA）にカリコム諸国の漁業・ブルーエコノミー担当大臣が出席し、同地域における食糧安全保障と雇用改善に向けて、気候変動に配慮したブルーエコノミーの発展及び水産養殖の推進を目標に掲げた。

５ カリコム

●（４日カリコム発表）カリコムとアフリカ連合は、両組織及び国民間の協力と連携強化のための覚書に署名。

●（２５日カリコム発表）中南米対日理解促進交流プログラム（Juntos!!）プログラムが開催され、カリコム諸国の若手外交官は沖縄を訪問し、様々な文化体験や交流を実施。